

令和7年度 第2回 飯田小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和7年9月3日（水） 13時35分から15時00分まで
- 2 開催場所 飯田小学校 校長室
- 3 出席委員 杉山邦司、露木里江子、小野逸子、白井竜之、鈴木美枝子、中村毅、鈴木大輔、廣瀬亜紀子
- 4 欠席委員 なし
- 5 オブザーバー 神谷匠（東部協働センター）
- 6 学校 勝亦英彦（校長）、町田全広（教頭）、河村拓実（生徒指導）鈴木卓（CS担当）、小林知美（CSディレクター）
- 7 傍聴者 1人
- 8 会議録作成者 CSディレクター 小林知美
- 9 議長の選出

司会から議長の選出について委員に意見を求めたところ、会長から鈴木大輔委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

10 協議事項

（1）前期の学校評価について

（2）今後の取組、支援策

「きれいなあいさつ きれいな言葉 きれいな心」の推進について

11 会議記録

司会の教頭から、委員総数8人のうち8人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（1）前期の学校評価について

教頭から資料に基づき、前期の学校評価についての説明があり、委員からは、以下の意見があった。

- ・ あいさつは、アンケート通りかなという印象。全体的に、東部中学校区はあいさつができていて、誇らしく思う。（杉山委員）
- ・ コロナ過と比べマスクをしなくてもよくなり、明るいあいさつができるようになってきた。児童アンケート8の『目標に向かって運動を楽しむことができる』では、子供にとって猛暑の中、外で遊べなかったり、登下校が送り迎えだったり運動のできる機会が減っているように感じる。今後、時代にどうやってついていくのか考えていかなければと思う。（露木委員）
- ・ 児童アンケートの10の『安全に気を付けて生活している』は、校内での評価のように思う。校外、特に西門付近では、交通ルールが守られていない。歩道と車道に分かれているにもかかわらず、車道を歩く子がいる。学童で迎えに来ている親も歩道を歩かない人がいる。親が見本を見せていかなければいけないと思う。（白井委員）
- ・ PTAのあいさつ運動のやり方を見直していて、来年から1～6年の全保護者対象に変えようと思っている。保護者アンケートの5の『家庭学習に取り組み、「できた」と感じるよう支援している』は、共働きが多く、平日支援が難しい。また、子供が自主的にやれる子ばかりではないので難しい。学校から、少し厳しくいってもいいのではと思う。（中村委員）
- ・ 児童アンケートの12『学校へ通うのが楽しい』で3・4に○をつけている子がいるのが心配。一人一人にそった支援が必要。できれば、子供達100%が学校に行くのが楽しいと思えるのが理想だ。（廣瀬委員）
- ・ 前回、公園でのトラブルがあり、警察が来て対応したと話した。その後、問題は減ってきている。（鈴木美委員）
- ・ この児童アンケートは、校内のことを言っていると思う。一步校外に出たら、言葉遣いが悪く、ルールを守っていないことが多い。（小野委員）

- ・ 関係が出来ていて、仲のいい子同士は呼び捨てにしている。(中村委員)
- ・ 仲のいい友達同士は呼び捨てでもいいが、言葉遣いは心配。(小野委員)
- ・ 放課後など、グラウンドから乱暴な声が聞こえてくる(白井委員)
- ・ アンケート結果を受けて、学校・家庭・地域も色々と探りながらできることを協力しながら考えてやっていきたい。(鈴木大委員)

協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

(2) 今後の取組、支援策「きれいなあいさつ きれいな言葉 きれいな心」の推進について

生徒指導から資料に基づき、今後の取組、支援策の推進についての説明があり、委員からは、以下の発言があった。

- ・ やはり、あいさつは親だと思う。子供への影響は大きい。(小野委員)
- ・ 家庭だと思う。全てが悪いわけではなく、きちんとケアしている親もいる。今の世の中、子供が外に出る時、知らない人は、警戒するよう言わなくてはならない。何があるかわからないから、怖い。(鈴木美委員)
- ・ 家庭であいさつすることに賛成。大人同士でもあいさつできる方、できない方もいる。親があいさつしていなければ、子供はあいさつしない。今の時代、いきなりフレンドリーに声をかけられても、地域の人の顔がわからなければ、大人でも警戒してしまう。学校で取り組んでいるあいさつ賞は、貰いたくても、南校舎の子は用もないのに北校舎に行けないため、あまり貰えない(廣瀬委員)
- ・ 教員が南校舎にも行くよう心掛ける。あいさつは、「おはよう」だけでなく「こんにちは」もあることを話していく。(校長)
- ・ 小さい子の方があいさつしている。学年が上がると、あいさつをするのが照れくさい。家庭でもあいさつはするよう言っているが、どうフォローしていくかが難しい。校区指導員にはあいさつするよう話している。(中村委員)
- ・ 本人の資質によって大きな声であいさつできる子もいれば、できない子もいる。すごく頑張って声を出している子もいるから、大きな声じゃなくても認めてあげてほしい。人が嫌な気持ちになることをしなければ、自然と言葉や行動に表れると思う。遠回りになるが、相手のことを感じ取る力が育てばいいのではないか。(白井委員)
- ・ 家庭は大切。親が子供の声のトーンで子供の様子を感じ取れる余裕があるといい。学校が楽しいと答えていなかった子が挨拶できた時は、特にカードをあげられるといいと思う。実際、どこまで見届けるかは難しいと思うが、褒めていってほしい。(露木委員)
- ・ 隣、近所を大事にできるといい。畑にいて、声を掛けてもらえると、嬉しい。学校で指導しても、家庭でなくては、身につかない。家庭が大事。大人が見本を見せていく。(杉山委員)
- ・ 相手のことを思いやる気持ちが大切。顔を知っている人に会ったら、あいさつをする。大人が見本を見せていく。家庭と地域も協力していく。(鈴木大委員)
- ・ 保護者のあいさつ運動の時に、あいさつカードを配る等、何か工夫があったら教えてほしい。協力できることはしていきたい。(校長)

協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

その他報告事項等

CSコーディネーターよりコーディネーター研修会の参加報告があった。

司会から、第3回会議は、令和7年11月21日(金) 13時30分から校長室で開催する予定である旨の報告があった。